

41 鬼の霍乱

普段は丈夫で病気にかかりそうにない人が、珍しく病気にかかること。

42 鬼の目にも涙

無慈悲で鬼のような人でも、時には同情したり、かわいそうに思ったりして涙をながすことのとたとえ。

43 帯に短したすきに長し

物事が中途半端で何にも使えず、役に立たないこと。

44 溺れる者は藁をもつかむ

非常に困ったり苦しんだりしている人が、頼りになりそうにないものにもすがろうとすることのとたとえ。

45 思い立ったが吉日

物事を始めようと決心したら、始める日を選ばずに、すぐに始めたほうが良いということ。

46 親の心子知らず

親の子どもへの愛情を知らないで、子どもは好き勝手にふるまうものだということ。

47 蛙の子は蛙

平凡な親からは平凡な子どももしか生まれまいということ。子どもの才能などは、結局は親に似るものだということ。

48 蛙の面に水

どんな目にあっても、何も感じていないかのように平気である様子。

49 風が吹けば桶屋が儲かる

ある出来事が巡り巡って思わぬ結果を生じること。また、当てにならないことに期待をすること。

50 風邪は万病の因

風邪を引くと体が弱り、他の病気にかかりやすくなるので、軽く見えてはいけないということ。

51 火中の栗を拾う

自分の利益にならないのに、あえて他人のために危険なことをするたとえ。

52 勝って兜の緒を締めよ

たとえ物事が思い通りにうまくいっても、気を緩めてはいけないということ。

53 河童の川流れ

何かの名人であっても、油断したりして、時には失敗するということ。

54 勝てば官軍

最終的に勝ったほうが理屈抜きで正義となり、負けたほうがすべて悪いということになるのが世の常だということ。

55 金は天下の回りもの

お金は人から人へと渡っていくので、今は貧しくてもいつかは回ってきたり、入ってきたお金は出ていく物だ。

56 壁に耳あり障子に目あり

隠し事はとにかく漏れやすいものだから、注意したほうがいいという戒め。

57 果報は寝て待て

運は人の力ではどうすることもできないので、焦らずに待っていた方が幸運はやってくるものだということ。

58 亀の甲より年の功

年長者が身に付けた長年の経験や豊富な知識は大事にするべきだということ。

59 鴨が葱を背負ってくる

鴨が葱を背負ってきたら、すぐに鴨鍋ができるように、都合が重なり、さらに都合がいいことのとたとえ。

60 枯れ木も山の賑わい

つまらない、あるいは役に立たない物でも、無いよりはあったほうがましだということのとたとえ。